

II

写真で見る 静岡がんセンターと ファルマバレー プロジェクト

静岡がんセンター

創設までの道のり



「静岡県がんセンター基本構想」(左、1995年度)と「静岡県がんセンター(仮称)基本計画-理想のがん医療を目指して」(右、1996年度)



建設予定地(農地、12ha)。左下に県立長泉高校



高松宮妃殿下ご視察。妃殿下から左に石川嘉延知事、柏木忠夫長泉町長、大野耕一郎準備室長、右に鶴田憲一保健衛生部長



高松宮妃殿下を中心に県職員等記念撮影。妃殿下から前列右に石川嘉延知事、柏木忠夫長泉町長、古橋三明医務課長。前列左に山口建国立がんセンター研究所部長、鶴田憲一保健衛生部長、大野耕一郎準備室長。後列は担当県職員で、左から宮崎隆広氏、北村國七郎氏、鈴木東悟氏、松本博行氏、小櫻充久氏、山脇和哉氏、白鳥岩男氏



土木工事。背景に長泉高校



土木工事。庭園の「心の池」



建設工事に向けての安全祈願祭。
石川嘉延知事による鍬入れの儀



建設工事。病院本棟部分



建設工事。骨格がほぼ完成



クリスマスイルミネーション。工事中の病棟部分を利用したクリスマスツリー

創設期(2002~2008年度)



静岡がんセンター開設。職員全員で記念撮影(2002年4月2日)



初めての職員オリエンテーション。
長泉高校体育館にて(2002年4月2日)



開院準備。病院玄関での患者案内リハーサル



病院開院式。寛仁親王同妃両殿下ご臨席。
寛仁親王殿下のご挨拶(2002年8月28日)



高松宮妃殿下揮毫による命名碑除幕式。寛仁親
王妃信子殿下と石川知事(2002年8月28日)



開院の日。初診患者受付エリア(2002年9月6日)



秋篠宮同妃両殿下のご視察。病院玄関にて（2003年9月12日）



陽子線治療のご説明。村山重行陽子線治療部長



呈茶マナーの学び。左から望月美保子氏、杉本和子氏、松本文氏、二人おいて木内麻記子氏



静岡がんセンター公開講座。2004年以降毎年開催



小児がん患者と家族のための宿泊施設「ひまわり」



石像彫刻「EELA（イーラ）」寄贈式。制作者の流政之氏（左）と石川嘉延知事（2006年6月）



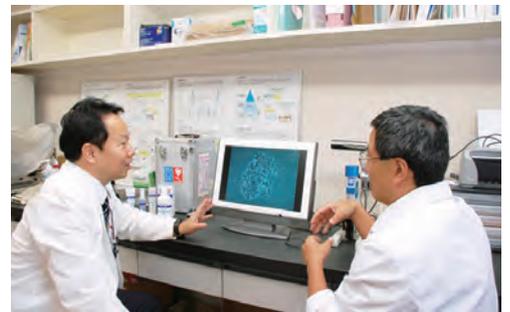
三県サミット開催。左から横内正明山梨県知事、石川嘉延静岡県知事、松沢成文神奈川県知事（2007年10月30日）



新研究所棟開所（2005年11月1日）



がんの生物学を研究する研究所職員（2009年11月）



企業研究室での製品開発。大田洋二郎歯科口腔外科部長（左）と江口徹サンスター静岡研究所長



研究所「しおさいホール」



研究所 医学図書館



毎年開催の患者家族集中勉強会



患者・家族を癒やす三島信用金庫コンサート（2008年10月21日）



院内保育所「たいようの子保育園」増改築（2008年1月17日）



落成記念の会



経営戦略会議。旧管理部門での最終開催（2009年11月9日）

成長期(2009~2015年度)



皇太子殿下（現天皇陛下）行啓。殿下の後方に川勝平太知事とボランティアの方々。
左に山口建総長、ボランティア代表内海美代子氏、右に古田里恵看護担当副院長（2010年8月3日）



研究所ロビーにて保育所園児たちのお出迎え



陽子線治療のご説明。鷲巢賢一病院長と村山重行陽子線治療部長



モンゴルのがん対策財団と静岡がんセンターとの連携。
左からモンゴル大統領夫人ハジドスレン・ボロルマー氏、川勝平太知事、山口建総長（2010年11月19日）



中国視察団への対応。安達勇参与による説明(2011年11月4日)



外来患者用立体駐車場新設（2009年4月24日）



新管理棟新設。センター幹部、事務局、医局が移動（2009年11月1日）



東日本大震災医療救護班派遣（2011年3月28日）



静岡県議会厚生委員会視察。
櫻町宏毅委員長他5名に対し、石野真澄がんセンター局長と
西村哲夫放射線治療部長が対応（2013年6月26日）



患者・家族のためのクリスマスコンサート（2012年12月25日）



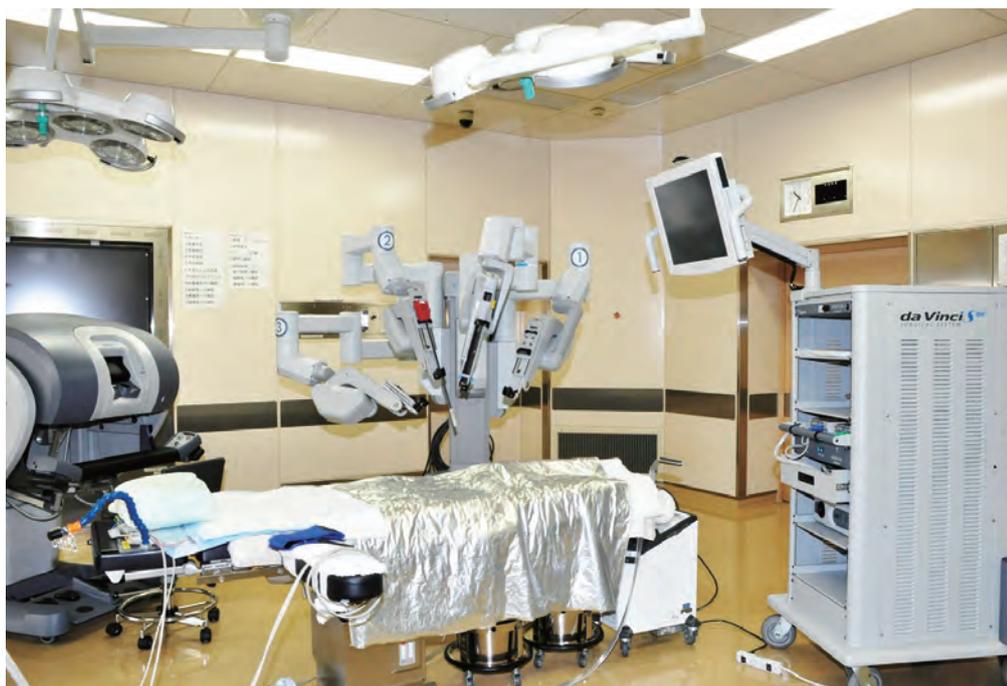
通院治療センターの移転・増床後、化学療法センターに名称変更。
支持療法センターを新設 (2016年8月29日)



化学療法センター治療病床



化学療法センター内に整備されたハザード室



手術室にロボット支援手術のためのダ・ヴィンチシステム導入 (2011年12月22日)



放射線治療棟新設（2015年6月）



完成記念式典でのテープカット。右から、玉井直院長、石野真澄局長、東堂陽一県議会厚生委員長、大須賀淑郎副知事、杉山盛雄県議会副議長、遠藤日出夫長泉町長、山口建総長、西村哲夫副院長（2015年9月16日）



プロジェクトHOPEの展開。7台の次世代DNAシーケンサーが稼働（2015年2月）



がんゲノム解析研究プロジェクトHOPE開始。技術責任者、浦上研一診断技術開発研究部長（2014年1月）



静岡がんセンター創設10周年記念の会。東レ総合研修センターにて（2012年12月15日）



患者図書館の増改築（2012年3月19日）



朝日がん大賞受賞。患者家族支援活動が評価された（2012年9月14日）



がんよろず相談事務室。電話相談などによる患者対応（2012年9月12日）



認定看護師教育課程。2018年がん看護領域5分野を初めて同時開講。5分野で計80名が修了（2019年3月8日）



日本初の病院立認定看護師教育課程として、皮膚・排泄ケア分野、受講者6名でスタート（2009年6月）



かるがもセンター（看護技術トレーニングルーム）運用開始。新人看護師の実践能力強化。指導は松見しのぶ看護師長（2013年7月30日）



医師・歯科医師レジデント修了式（2010年3月8日）



慶應義塾大学医学部との連携大学院制度開始。左から、末松誠医学部長、山口建総長、岡野栄之医学研究科委員長（2012年4月26日）

発展期(2016~2022年度)



患者家族支援センター新設。正面玄関の左右によろず相談とともに設置 (2017年7月1日)



患者家族支援センター(入院前支援室)の看護師。全ての初診患者との対話を実践



院内保育所「たいようの子保育園」を移転新設。130名に対応可能 (2016年7月22日)



保育所開所式。未来が楽しみな元気な園児と記念撮影



ファルマバレープロジェクトセミナー。東京で開催、川勝平太知事の挨拶 (2017年12月19日)



各種セミナーでの医療広報活動。広報担当丸茂江以子総長補佐官



エスアールエル・静岡がんセンター共同検査機構株式会社設立。プロジェクトHOPEの成果をもとにがんゲノム医療を推進（2018年9月10日）



がん全ゲノム解析のための専門家会議（エキスパートパネル）。ゲノム医療専門医、臨床医、病理医、研究者、データ科学者、遺伝カウンセラー等が出席。日本医療研究開発機構（AMED）の委託事業



東京慈恵会医科大学との連携大学院協定締結式。がん専門看護師養成が目的。松藤千弥大学長（中央）から右に中村美鈴看護学専攻長、栗原敏学校法人慈恵大学理事長、櫻井尚子看護学専攻教授。左に、山口建総長、鶴田清子副院長、水まいづみ看護部長（2019年7月2日）



洋画家栗原高光氏より日展特選受賞作「マスト」の寄贈。画家を中心に溝淵俊次氏（右）と山口建総長（左）（2021年11月30日）



小児がん患者に20年間贈り物。左から二人目八木洋氏と三人目望月智江氏。二人は創設時から小児病棟設置に尽力された ©静岡新聞社



AYA世代病棟学習室を改修中。匿名寄附により実現

現況



静岡がんセンター病院本棟（中央）と研究所棟（左）



病院玄関。コロナ禍での入院時チェック



外来患者受付・支払いコーナー。
医事課と業務委託企業ミックスが担当



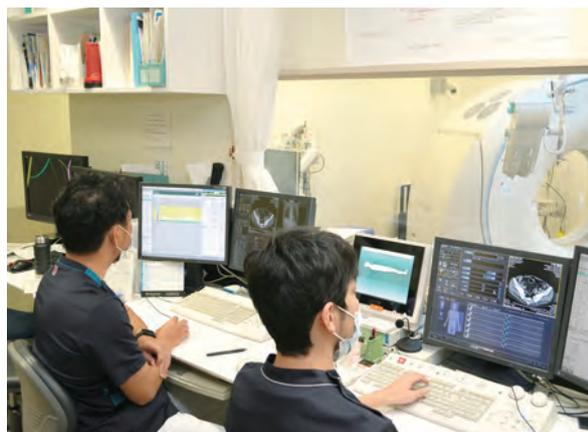
柿田川ホールの風景。1階奥に患者図書館と患者サロン



売店「風のマーケット」。富陽軒・ミニストップが担当



外来患者待合。南に面し、陽光を感じる



画像診断CT検査室。患者を観察しながら検査を実施



生理機能検査室。9箇所で行われている超音波検査をモニター



血液検査を実施する臨床検査部門。エスアールエル社への業務委託。病理部門とともにISO認定を取得



10西病棟のスタッフステーション（右）と病室（左）



病棟個室。明るい室内環境



内視鏡部門。内視鏡診断、治療技術を世界へ発信



手術部門。手術室13室と集中治療室28床を運用し、一日約20件の手術を実施



医局。医師・歯科医師のデスクワークのスペース



事務局。静岡がんセンターの運営を一手に引き受け



情報システム管理部門。電子カルテとインターネット環境の安全対策を担う



防災センター。センター内の安全管理。(株) コアズに業務委託



患者食のための厨房。栄養課管理のもと、数百名の患者に毎日3食を提供。日本ゼネラルフード(株)に業務委託



SPD部門。施設管理課によりセンターで使用する医療用物品等を一元管理。(株) エフエスユニマネジメントに業務委託



清掃部門。診療の終了後、備品一つ一つを消毒。施設管理課の指導のもと、センター全域の清掃を担当。エクレ(株)と(株)CBMに業務委託



病院本棟屋上階の展望レストラン(南面)。北側には職員食堂。フジ産業(株)に業務委託

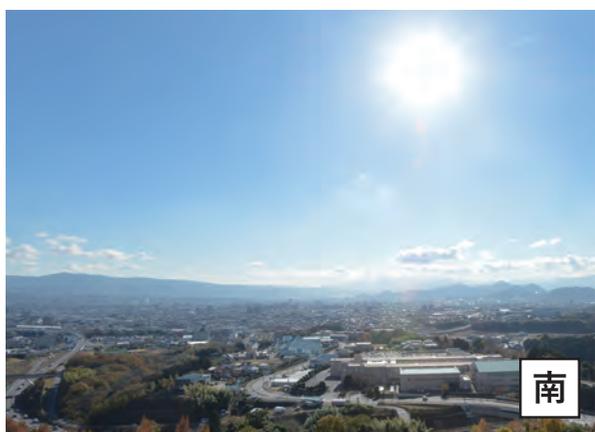
優れた療養環境



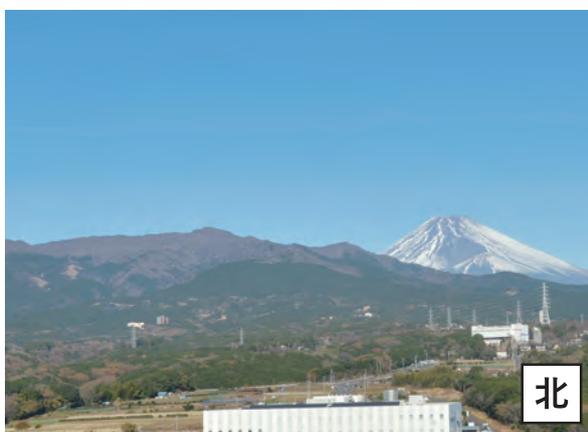
東に箱根連山



西に駿河湾



南に沼津・三島の市街地と伊豆の山々



北に富士山と愛鷹山地



ガーデンホスピタル。心の池の周囲に花壇が広がり遠景に東屋。入院患者・家族の散策コース



アートホスピタル。館内に200点以上の絵画や芸術作品を配置



ボランティア活動。外来患者、見舞客を癒す3月のひな祭り



病院本棟11階の展望風呂「富士見（不死身）の湯」



花火大会。長泉町関係者による（2018年11月24日）



バラ園。季節には1000本のバラが咲き乱れる
地域有数のバラの名所



虹に包まれて

ファルマバレープロジェクト



ファルマバレープロジェクトの中心地。この地から、静岡県全域、山梨県に展開



富士山麓ファルマバレー構想策定
(2001年2月8日)



ファルマバレーセンター開設。左から4人目が井上謙吾初代所長
(2003年4月1日)



JR御殿場線長泉なめり駅が開業。長泉町にとって
悲願の新駅開業 (2002年9月7日)



静岡県庁経済産業部ファルマバレープロジェクトチーム。
看板左が吉林章仁産業部理事 (新産業集積担当)、右が増井
浩二新産業集積室長 (2009年4月1日)



静岡がんセンター研究所に移転。
ファルマバレーセンター職員の
集合写真(2008年5月13日)



旧長泉高校を改修したファルマバレーセンター新拠点に入居
(2016年9月1日)



ファルマバレーセンター事務室



入居企業の成果品展示



静岡県と山梨県との医療健康産業政策連携に関する協定締結。
川勝平太静岡県知事(右)、長崎幸太郎山梨県知事(左)、
山口建静岡がんセンター総長(中央)(2019年12月17日)



「自立のための3歩の住まい」モデルルームを開設(2021年3月5日)



「ふじのくに医療・介護福祉機器展」開催
(2022年12月2日)